行田市民大学 広報たより

２０２３年
（令和５年）
１２月１日発行
広　報　部

行田市民大学ホームページ QRコード

行田市民大学特別講座「私の描く行田の未来」

市民大学新学長行田邦子氏の特別講座 １０月３日行田市教育文化センターで開催

行田邦子新学長

行田市民大学特別講座が、行田市教育文化センター（みらい）文化ホールで行われた。講師は行田（こうだ）邦子新学長（行田市長）。行田市民大学在校生（13期・14期）と行田市民大学同窓会関係者が参加した。

始めに、行田市民大学今村武蔵理事長と行田市民大学同窓会永島宏章会長が挨拶。

新学長はまず「市民の手によって作られた行田市民大学がある行田はすばらしい。」と述べ、自己紹介・プロフィール・自身の活動などを映像を示して説明した。

新しい行田を作るための重点政策として「子育て支援ー教育の充実」「雇用の創出ー若者の定住・移住」「交通インフラの整備」をとりあげた。

最後に「私の描く行田の未来」新しい行田へ　みなさんといっしょに！と述べた。

新学長の市民大学や行田市に寄せる思いが込められた講義だった。

新学長講座風景

わくわくクラブの活動

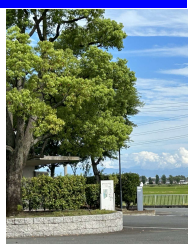
わくわくクラブ
北小学校

放課後子ども教室わくわくクラブ北小学校は年間計画で月ごとに活動内容を設定し、9月は運動系のシャボン玉遊び。これは子ども達が楽しみにしている活動。赤 青 黄 緑の4チームに分かれ、4種類のシャボン玉作りに挑戦していく。特に好評なのはやったことのない「おおだまシャボン玉」。おおだまが出来たときには歓声が上がった。

「ものつくり大学」で授業開始！

ものつくり大学

教室内で授業


秋晴れの空

令和５年９月７日から行田市民大学の会場が「ものつくり大学」のキャンパスに三年半ぶりに戻りました。

１４期１学年講座　中島洋一課長 行田市の原点　日本一の足袋産業

「足袋蔵のまち行田」は平成２９年に日本遺産に認定された。日本一でオンリーワンのものとして行田足袋と足袋蔵のストーリーが様々な文化財とともに構成されている。

講師の中島洋一行田市文化財保護課長は、行田足袋の起源から発展・衰退まで、数々の文献や資料を基に詳しく説明。「足袋蔵を活かしたまちづくり」の重要性を再確認した講義だった。

1学年講義

１３期２学年講座　公正取引委員会 安くて良い商品を買えるワケ

公正取引委員会事務総局官房総務課の西山健一氏が、独占禁止法と公正取引委員会の役割等について講演。公正取引委員会は独占禁止法を運用するために設置された機関。「競争のルール」などのパンフレットを使って詳しく「安くて良い商品を変えるワケ」について説明した。

公正かつ自由な競争の大切さを学んだ。

２学年講義

「学んだことを日々の暮らしや地域社会に活かすこと」はすばらしいことです

行田市民大学の活動

令和５年度「子ども大学ぎょうだ」

７月８日～９月９日で５日間開催

行田市民大学は３日目と４日目を担当

３日目　７月２９日(土)の講座〈ふるさと学〉

講座１　忍の行田の「昔話を聞こう」

忍の行田の「昔ばなし」語り部の会の土屋博幸氏による「春日さまと子供たち」、続いて小堺百合子氏による「古代蓮物語」。行田に伝わる８０話から２話が披露された。

子供たちは昔話に耳を傾け、真剣に聞き入っていた。

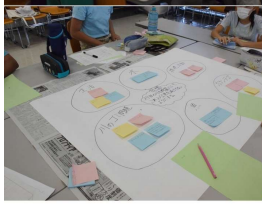
講座２　「未来に残したい行田の自然」

行田市民大学理事長の今村武蔵氏の講座。「大切な水」について講義した。汚水をきれいにするには大量のきれいな水が必要なので川に汚れを流さないようにしようと話した。「緑について」では、行田付近に見られる生態系に大きな影響がある生き物などを紹介した。

４日目　８月２６日(土)の講座〈ふるさと学〉

講座とワークショップ　「守ろう行田の自然」

行田の市民憲章の前文には「埼玉県名発祥の地、恵まれた自然と輝かしい歴史を持つ行田市民であることに誇りと責任を感じます。」と記載されている。本文にある「自然を生かし美しい町を作ります。」について生徒たちに考えることを実習した。水城公園の池を守ること。忍川の水をきれいにし、生き物を守ること。星川のキタミソウを守ること。前玉神社の森を守ること。福川の中条堤を守ること等をグループに分けて検討した。検討内容は市長に報告される。



パソコン講習会

８月１９日と２０日に開催

市民大学の活動内容等を生徒の皆さんにホームページに投稿してもらうために、今年も、パソコン講習会が開催された。参加者は１９日午前７名、午後８名、２０日午前９名、午後１０名で内容は１年生が１２名、２年生７名、計１９名。

講習会内容は、午前中がパソコンとインターネットに慣れる練習。行田市民大学のホームページの閲覧方法、グーグルマップで自分の家を検索する。パソコンのキーボードの使い方等の練習を実施。

午後の講習は、行田市民大学のホームページへの投稿。事前に各参加者に投稿するためのＩＤとＰＷが渡され、これを使用してログイン。投稿文の書き方、画像の挿入方法など分からないところを、いろいろ試しながら投稿を行った。

参加した皆さんは、楽しそうに自分の投稿した内容を市民大学のホームページで確認、今後の皆さんの投稿が期待できる。

編集後記

３年半ぶりに、ものつくり大学での講座が再開されやっと通常にもどりつつあるようです。これからも頑張ります。

編集委員　小堤敏正　原口廣之　茂木幸蔵　水出みよ子　田島実